4-1 実践事例及び考察

実践事例1 第4学年 「筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう」

教材 「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下) 副教材「くらしをまもる車」(学校図書 1年下)

○実践校における課題の焦点化

「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」



○課題の解決に向けて必要な力

「説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力」



○授業改善のポイントを生かした手立て

ア 児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくること

[**手立て**①] 低学年の説明的な文章を副教材として用いて、学び方を確認させる。

[手立て②] 学習を通して得た新たな知識を「説明文お宝ヒント集」にまとめさせ、活用を図る。

イ 単元を通して言語活動を位置付けて授業を行っていくこと

[**手立て③**] 単元を通した言語活動として「ガイドブック作り」を位置付け、主体的な活動につなげる。

ウ 自分の考えを広げたり深めたりさせる話合いを授業に取り入れること

[**手立て**4] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、グループ学びを設定する。

エ 学びを自覚させる振り返りを取り入れること

[**手立て⑤**] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。



1 単元名

筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう 教材「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下) 副教材「くらしをまもる車」(学校図書 1年下)

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、前単元「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」(光村図書4年上)で、 段落相互の関係を考えながら読んだり、事実・説明・筆者の考えの関係を捉えたりする学習を行って きた。段落ごとに何が書かれているか、筆者が伝えたかったことは何かについて、個人、グループ、 全体で考える活動を行ったが、内容を十分に理解できている児童は少なかった。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年における「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」をねらいとして設定している。

本教材では、映像や新聞の写真で用いられるアップとルーズの2つの方法について、それぞれの特徴を述べ、送り手が伝えたいこと、受け手が知りたいことを考えながらアップとルーズを使い分けることの大切さを述べている。本教材は、アップとルーズを対比的に述べており、段落相互の関係をつかませやすい教材である。また、文章だけでなく、写真を用いて対比関係を分かりやすくしており、児童はアップとルーズの対比関係を写真でも容易に理解することができると考える。

さらに、単元導入時に扱う教材文「くらしをまもる車」では、働く車が人々の生活を守っていることが述べられている。この教材文は、文章が短く、説明的な文章の基本的な構成が分かりやすく、まとまりごとに書かれている内容を理解し、段落相互の関係をつかみやすい。

そのため、単元導入時にこの教材文で説明的な文章の基本的事項を確認させ、「アップとルーズで 伝える」で生かすことができると考える。

(3) 指導観

- ・第一次では、1年生の説明的な文章「くらしをまもる車」を用いて、説明的な文章を読むために必要な内容(問い、始め・中・終わりの構成など)を確認させることで、「説明的な文章を読むことは、難しいことではない」と安心感をもたせることをねらう。また、「説明文お宝ヒント集」を自分の言葉で書き加えながら完成させていくことを伝えることで、最後まで読みたいという意欲をもたせることをねらう。
- ・第二次では、「筆者の工夫」をキーワードに、文章構成や、段落相互の関係を読み、ガイドブックにまとめていくことを伝えることで、単元の学習課題を明確につかませることをねらう。課題意識をもたせることで、学習への意欲へとつなげていく。説明的な文章を読むヒントを見付けたら、自分の言葉で「説明文お宝ヒント集」に加筆させていくことで、自分に力が付いていることを可視化させ、学習意欲を持続させることをねらう。
- ・第三次では、見付けた「筆者の工夫」を文章にまとめる活動を行う。まとめる際には、グループ学びを設定し、お互いの「説明文お宝ヒント集」に書かれた表現を比べ合い、よりよい表現に修正した上で、筆者の工夫を大事なことから3つ、順番を付けてまとめさせ、グループで発表会をさせる。

3 単元の目標

- ○それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。
- ○写真と対応した部分に注意して読み、アップとルーズそれぞれの特徴を整理することができる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・学習課題を解決したいという意 欲をもち、文章を読んで自分の 考えをまとめようとしている。		関係を示す手掛かりになるこ

5 指導と評価の計画(全9時間)(授業改善のポイントを生かした手立てについては、手立て番号と下線で示す 『① 』)

5	扣等	と評価の計画(主9時间)	⁾ (授業改善のポイントを生かした手立てについては、手立て番	≸号と下線で示す 『 <u>1</u> 』
次	時 間	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】と 評価方法()
	1	○学習の見通しをもっ。 ①「くらしをまもる車」 の文章を並べ替えて これまでの説明的な 文章の学習を想起す る。 ②グループ学び ○単元を通した言語 活動の見通しをもっかむ。 クラス学び	・ばらばらになった文章を並べ替えることで、説明的な文章の読みに大切な観点を想起させる。 ・グループ学びで、想起した観点についてより良い表現に検討させ、【説明文お宝ヒント集】にまとめさせる。 【説明文お宝ヒント集に書かれた児童の記述例】・形式段落に番号をつける。・キーワードに線を引く(題名に関係する言葉・くり返し使われている言葉)。・問いの文を見つける。・「はじめ」は、問いの文のある段落まで。・「このように~」で始まる段落から「おわり」。 ・単元を通して、筆者の工夫を見付け、ガイドブックにまとめることで、今後の説明的な文章の学習でも活用していくことを伝え、意欲や見通しをもてるようにする。	
			者の工夫を、段落と段落を関係付けて、 イドブックにまとめよう。	
	2	○学習計画を立てる。 ○「くらしをまもる 車」の段落相互の 関係をつかみ、ガ イドブックにまと める。 グループ学び ひとり学び	 ・学習課題を明確にさせることで、学習のゴールをイメージさせ、学習計画を立てさせる。 ・グループ学びで、「くらしをまもる車」の段落相互の関係をつかみ、文章の構成図を書かせる。 ・「くらしをまもる車」を基に、「アップとルーズで伝える」の文章の構成を考える。 	【読 (イ)】 ・「くらしをまもる車」 に書かれていることを読み、段落相互の関係をつかんでいる。 【言 (イ(ク))】 ・指示語や路落の関係を示す手掛かりになることを理解している。 (ワークシート・発表)
	3	○【説明文お宝ヒント	・筆者の工夫を見付けるために、②【説明文お	【関】

	集】のヒントと 「アップとルーズ で伝える」とを比 べて読む。 ひとり学び 4 <u>グループ学び</u> クラス学び	宝ヒント集】のヒントと「アップとルーズで伝える」とを比べながら読ませた後、グループ学びで検討させる。 ・前時にひとり学びで考えた「アップとルーズで伝える」の文章の構成をグループ学びで検討させる。 ・グループ学びの結果を、全体で交流させる。 ・本時で見付けたヒントを【説明文お宝ヒント集】に加筆させる。	・「アップとルーズで 伝える」を【説明 文お宝ヒント集】 を使って読んでい る。 (発表・ワークシー ト)
4	○「アップとルー ズで伝える」の全 体の文章構成をつ ④かむ。 グループ学び	 ・形式段落の書き出しにサイドラインを引かせることで、段落と段落との関係に気付かせる。 ・「アップとルーズで伝える」の内容の大体を読み、「始め・中・終わり」の分け方を、段落と段落との関係に気を付けて、グループ学びで検討させる。 ・本時で見付けたヒントを2【説明文お宝ヒント集】に加筆させる。 	【読 (イ)】 ・全体の構成を捉え ている。 (発表・ワークシー ト)
5	○「アップとルーズで伝える」の文章の構成から、対比の関係を捉える。 ひとり学び ④グループ学び	 ・アップとルーズについて書かれている言葉や文にそれぞれ色を分けて線を引かせることで、対比の関係に気付かせる。 ・写真と文章を関連付けることで、対比の関係に気付かせる。 ・本時で見付けたヒントを2、説明文お宝ヒント集】に加筆させる。 	【読 (イ)】 ・対比の関係を捉え ている。 (発表・ワークシー ト)
6	○⑦、⑧段落の役割 について考える。 ④ <mark>グループ学び</mark> クラス学び	 ・⑦、⑧段落が必要か必要でないか、その根拠について、グループ学びで検討した後、クラス学びで話し合わせる。 ・⑥段落と⑧段落を比較することで、文章全体をまとめているのは、⑧段落であることを確認させる。 ・本時で見付けたヒントを②説明文お宝ヒント集】に加筆させる。 	【読 (イ)】 ・段落相互の関係を 捉えている。 (発表・ワークシー ト)
7 8	○「アップとルーズ で伝える」で筆者 が最も伝えたかっ たことを考える。 ④ グループ学び	 ・筆者の主張が書かれているとっておきの一文を選ばせることで、筆者の工夫に気付かせ、ガイドブックにまとめさせる。 ・ガイドブックにまとめた言葉をクラス学びで交流させる。 ・本時で見付けたヒントを2【説明文お宝ヒント集】に加筆させる。 ・筆者の工夫をガイドブックにまとめさせることで、学習課題を振り返らせる。 	【読(イ)】 ・筆者の主張を捉え ている。 (発表・ワークシー ト)
9	○筆者の工夫をガイ	・書いた文をグループで互いに読み合い、筆	【関】

ドブックにまとめ る。

- ○ガイドブックに書いた筆者の工夫に対する自分の考えを、発表し合う。
- 4グループ学び
- 者の工夫が分かりやすくまとめられているかを確認する。
- ⑤単元全体を振り返り、説明的な文章を読む 時に必要なことをまとめたり、自分の力で 文章を読むことができるようになったかを 自己評価したりする。
- ・学習を振り返り自 分が身に付けた力 に気付いている。(発表・ワークシー ト)

第4学年 実践事例 (1時目)

本時の目標

学習の見通しをもって、説明的な文章を読もうとすることができる。【関・意・態】

2 本時の展開(全9時間 本時1/9)

1	• • •
学習活動	教師の働き掛け(○)
1 ばらばらになったカ	○「くらしをまもる車」の教材文を形式段落ごとに8枚のカードに分
ードを並び替える活動	け、ばらばらに並べて提示した。
を通して、説明的な文章	○ペアで、8枚のカードを正しく並べ替える活動に取り組ませた。
の特徴を見付ける。	○ペアで、カードを並べ替えた順番とその根拠について考えさせた。
2 ペアで、並び替えた順	○どのようなことに気を付けて並べ替えたのかを考えさせることで、
番の根拠を話し合う。 それまでの説明的な文章の学習を振り返り、説明的な文章の特別を表現している。	
	捉え、説明的な文章を読む時に大切なことを見付けさせた。

《本時のめあて》 説明文を読む時に大切なことを、 「くらしをまもる車」を読んで、 【説明文お宝ヒント集】にまとめよう。

3 説明的な文章を読む 時に大切なことを、自分 の言葉で書かせ、グルー プでどのまとめ方がよ いか検討し合う。

○グループで順番やその根拠について話合う活動を通して、説明的な 文章の読みに必要な観点に気付かせた。

○クラスで児童の発言を基に分類整理して、【説明文お宝ヒント集】に まとめさせた。その際、観点を出した児童名も書き込むことで、自 分たちで作成するということを意識させた。

グループ学び

【説明文お宝ヒント集】

- ・形式段落に番号を付ける。
- キーワードを見付ける。
- 問いの文がある。
- ・「このように~」からが終 わりになる。
- 4 単元の学習課題を話 し合う。

形式段落別に、ばらばら になった説明的な文章

児童が正しく並び替えた 説明的な文章

\$ # E

○本単元では、【説明文お宝ヒント集】を基に、既習の説明的な文章の 読み取り方を使って読むことと新たな読み取り方や筆者の工夫を見 付けて、ガイドブックにまとめていくことを伝えた。【評価】

《学習課題》

筆者の工夫を、段落と段落を関係付けて、ガイドブックにまとめよう。

クラス学び

○【説明文お宝ヒント集】の観点が「アップとルーズ」でも使えるの かどうかを確かめながら、説明的な文章の新たな読み取り方や筆者 の表現の工夫をガイドブックにまとめ、今後の学習で活用していく ことを伝えた。

○教師が作成したガイドブックのモデルを提示することで、単元のゴ
ールをイメージさせ、児童の意欲を喚起し、学習の見通しがもてる
ようにした。

評価規準	学習の見通しをもって、説	明的な文章を読もうとしてい	る。【関・意・態】
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	説明的な文章の構成を捉	説明的な文章の構成を捉	→友達の考えを参考に並べ替
	えながら、進んで教材文の	えながら、教材文の並べ替	えをさせる。
	並べ替えをしようとして	えをしようとしている。	
	いる。		
評価の方法	発言・ワークシート		

第4学年 実践事例 (2時目)

1 本時の目標

説明的な文章を読む時に大切なことを、「くらしをまもる車」を読んで見付け、自分の言葉でまとめることができる。【読】

2 本時の展開(全9時間 本時2/9)

学習活動	教師の働き掛け(○)	
1 前時の学習を振り返	○前時に作成した【説明文お宝ヒント集】を提示し、これを基に「く	
り、本時のめあてを知る。	らしをまもる車」の構成や筆者の工夫を読み取ることを伝えた。	
1	くらしをまもる車」を読んで、説明文を読むときに大切なこを見付け、自分の言葉でまとめよう。	
2 学習計画を立てる。	○学習計画を話し合い、今後の見通しをもたせた。	
3 「くらしをまもる車」	○【説明文お宝ヒント集】を基に、文章構成図を作成させた。	
を読み、ガイドブックに	・始め・中・終わりに分ける。	
まとめる。	・段落ごとに何が書かれているか小見出しを付ける。	
	・筆者の主張(一番伝えたかったところ)を見付ける。	
	・「中」に何がどのように書かれているかを考える。	
	→筆者は、自分の主張を伝えるために、「中」で何をどのように述	
	べているのかをまとめさせた。	
グループ学び	○段落相互の関係をつかませる活動では、グループ学びを行い、互	
	いの考えを伝え合い、読み取りを深めさせた。	
ひとり学び	○説明的な文章の読み取りに必要なヒントが新たに出てきたら【説	
	明文お宝ヒント集】に付け加えさせた。【評価】	
4 学習を振り返る。	○本時の学習を振り返らせ、分かったことを記述させた。	

評価規準	・「くらしをまもる車」に書かれていることを読み、段落相互の関係をつかんでいる。【読】		
	・指示語や接続語が文や段落	茖の関係を示す手掛かりになる	ことを理解している。【言】
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	「くらしをまもる車」の文	「くらしをまもる車」の小	→板書を基に、文章構成図を
	章構成、小見出しや筆者の	見出しや筆者の工夫を書い	作成させる。
	工夫を書いて段落相互の関	て段落相互の関係をつか	
	係をつかんでいる。	んでいる。	
評価の方法	発言・ワークシート		

4 学習計画表

/	(できるようになったこと・ついた力) ○学習をふりかえる。	六
/ /	○「アップとルーズで伝える」での筆者の工夫をガかったことを考える。	五
/ / /	読み取る。	四
/	〇「アップとルーズで伝える」を自分で読み取る。	三
/	○「くらしをまもる車」を読み取り、ガイドブック○学習計画を立てる。	=
/	○これからの学習の見通しをもつ。 ○これまでに学習したことを思い出す。	
_ ြိ	学習計画名前(学業
		٦

第4学年 実践事例 (3時目)

1 本時の目標

筆者の工夫を見付けるために、【説明文お宝ヒント集】と「アップとルーズで伝える」とを比べながら読もうとすることができる。【関・意・態】

2 本時の展開(全9時間 本時3/9)

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 前時の学習を振り返	○前時に作成した「くらしをまもる車」の文章構成図を提示し、この
り、本時のめあてを知る。	構成図や【説明文お宝ヒント集】を基に、「アップとルーズで伝える」
	を読むことを伝えた。
《本時のめあて》 筆	を 全者の工夫を、【説明文お宝ヒント集】と「アップとルーズで
ĺ	ええる」とを比べながら見付け、ガイドブックにまとめよう。
2 「アップとルーズで伝	○【説明文お宝ヒント集】や「くらしをまもる車」の文章構成図を参
える」を読む。	考に、自力で文章構成図にまとめさせた。
ひとり学び	文章構成図にまとめる際に主にすること
	・形式段落に分ける。
	・問いの文に線を引く。 ・キーワードに線を引く。
	・はじめ・なか・おわりに分ける。
グループ学び	○文章構成図を作成しながら、【説明文お宝ヒント集】のヒントが「ア
	ップとルーズで伝える」にも当てはまるかどうかを検討させた。当
	てはまるものは○、当てはまらないものは×、どちらかわからない
	ものは△を付けさせた。【評価】
	○ヒントが当てはまるかどうかを、グループで検討させた。
クラス学び ○グループ学びの結果を、全体で検討させた。	
3 学習を振り返る。	○本時の学習を振り返らせ、分かったことを記述させた。

評価規準	筆者の工夫を見付けるために、【説明文お宝ヒント集】と「アップとルーズで伝える」			
	とを比べながら読もうとして	ている。【関・意・態】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)	
	「アップとルーズで伝え	【説明文お宝ヒント集】の	→友達の考えを参考に書かせ	
	る」の文章構成を理解し	ヒントが当てはまるかを	る。	
	て、【説明文お宝ヒント集】 検討し、○△×を付けてい			
	のヒントが当てはまるか	のヒントが当てはまるかる。		
	を検討し、○△×を付けて			
	いる。			
評価の方法	発言・ワークシート			

第4学年 実践事例 (4時目)

1 本時の目標

筆者の工夫を見付けるために、「くらしをまもる車」と「アップとルーズで伝える」とを比べて読み、 教材文「アップとルーズで伝える」の構成の工夫を捉えることができる。【読】

2 本時の展開(全9時間 本時4/9)

兴羽江利	#4年の母を担け(○)
学習活動	教師の働き掛け(○)
1 前時の学習を振り返	○前時に作成した文章構成図を基に、本時では全体で検討すること
り、本時のめあてを知	を伝えた。
る。	
	筆者の工夫を、「くらしをまもる車」と「アップとル―ズで伝える」とを比べて読んで見付け、ガイドブックにまとめよう。
2 「アップとルーズで 伝える」の全体の文章	○段落の始めの言葉にサイドラインを引かせ、前後の段落との関係を考える手掛かりとさせた。
構成をつかむ。	○「くらしをまもる車」でまとめたガイドブックを基に、構成図に まとめさせた。
グループ学び	○グループで「始め・中・終わり」の分け方について考えさせた。○キーワードや問いの文にサイドラインを引かせた。
	○キーワードや内容から各段落に書かれていることを小見出しにまとめさせた。
	○【説明文お宝ヒント集】のヒントが当てはまるかどうか全体で文章構成図を作成しながら確定していく。本時で解決できないヒントについては、次時以降に解決していくことを伝えた。【評価】
3 学習を振り返る。	○本時の学習を振り返らせ、分かったことを記述させた。

評価規準	「アップとルーズで伝える」の構成を捉えている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	【説明文お宝ヒント集】	【説明文お宝ヒント集】を	→友達の考えや板書を参考に
	や、キーワードや内容を基	使って、始め・中・終わり	書かせる。
	に、始め・中・終わりに分	に分けたり、小見出しを書	
	けたり、小見出しを書いた	いたりしている。	
	りしている。		
評価の方法	発言・ワークシート		

第4学年 実践事例 (5時目)

1 本時の目標

筆者の工夫を、段落と段落を関係付けて読み、対比の関係を捉えることができる。【読】

2 本時の展開(全9時間 本時5/9)

	学習活動	教師の働き掛け(○)
1	前時までの学習を振り返る。	○前時までに出てきた疑問や解決できていないことをみんなで
		考えていくことを伝えた。
2	本時のめあてをつかむ。	○ヒント集を基に「アップとルーズで伝える」を詳しく読んで
		いくことを伝える。

筆者の工夫を、段落と段落の関係から読んで見付け、 《本時のめあて》 ガイドブックにまとめよう。

- 3 ⑥段落のはじめの1文がどこ を指しているのかを考える。
 - 「このように」の内容が、どの 部分なのかを考える。

ひとり学び

- 4 ④⑤段落の関係を読み取る。
 - アップとルーズで伝えられるこ とと伝えられないこととは何 か。それがどこに書かれている か。
- 5 ④⑤段落と同じ関係の段落を 見付ける。
 - れているのは、文章だけか。
- 6 対比について知る。
- 認する。

グループ学び

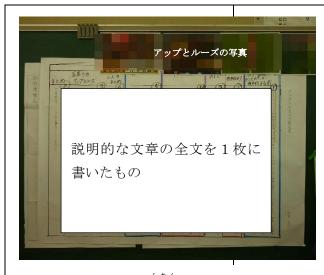
- 本時のまとめをする。
 - 「このように」は、文章全体だけ でなく、部分をまとめる役割も
 - ・アップとルーズが対比で述べら れている。

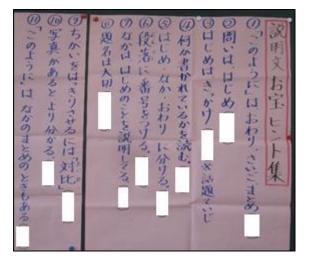
- ○アップとルーズで伝えられることと伝えられないことが④⑤ 段落に書かれていることから、「このように」が、④⑤段落に 係っていることを確認させた。
- ○アップとルーズについてそれぞれ色を分けて囲ませる。
- ○伝えられることと伝えられないことについて述べている文を 表に表し、それぞれが反対になっていることに気付かせた。
- ○書かれている内容から、①②段落が④⑤段落と同じ関係であ ることに気付かせた。
- ・アップとルーズについて説明さ□○写真に着目させ、写真の様子を説明している文章を見付けさ せ、写真がアップとルーズの説明を補う役目になっているこ とに気付かせた。
 - ○アップとルーズが「対比」という関係にあることを確認させ た。
- 7 「このように」の使われ方を確 ○「くらしをまもる車」では、文章全体をまとめる役割の段落

に「このように」が使われていたが 、「アップとルーズで伝える」では、 部分的にまとめる段落に使われて いることに気付かせた。【評価】

- ○本時で分かったことを自分の言葉 でまとめさせた。
- ○「対比」は、筆者の工夫の一つであることを確認させた。
- ○「くらしをまもる車」との構成を比較させ、構成が異なるこ とを確認させた。





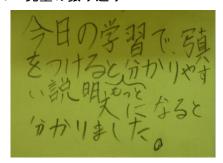


説明的な文章を俯瞰的に読む手立て

加筆していった【お宝ヒント集】

評価規準	段落と段落を関係付けて読み、対比の関係を捉えている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	「このように」の役割や	「このように」の役割や対	→アップとルーズについて
	対比関係を捉え、自分の	比関係を捉えている。	書かれている段落を見付
	言葉で説明している。		けさせ、書かれていること
			が互いに反するものであ
			ることを図式化して示す。
評価の方法	発言・ワークシート		

4 児童の振り返り



今日は、田のたりんらくのたりというでしたいでいる。たいでいる。たいでいる。たいでいるからいるからいました。

今日は、ちがいを、見るのが対比して初めて知って、なるほどと思いました。対比をもっと、さがしたいです。

第4学年 実践事例 (6時目)

1 本時の目標

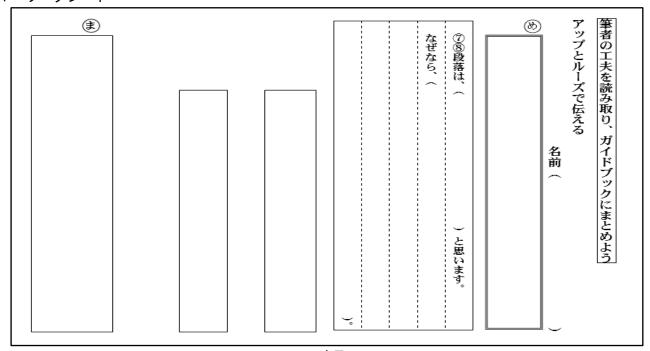
⑦、⑧段落と他の段落との関係を考え、⑦、⑧段落の役割を捉えることができる。【読】

2 本時の展開(全9時間 本時6/9)

学習活動	教師の働き掛け(○)	
1 前時の学習を振り返	○前時に学習した「対比」や「このように」の役割について確認させ	
り、本時のめあてを知	<i>た</i> 。	
る。	○「⑦、⑧段落は、この説明的な文章には必要ないのではないか」と	
	問い掛けた。	
《本時のめあて》	筆者の工夫を、⑦段落と⑧段落の役割を読んで見付け、	
	ガイドブックにまとめよう。	
2 ⑦、⑧段落が必要かに	○グループ学びで、⑦、⑧段落が必要かどうかと、その理由をワーク	
ついて自分の考えをも	シートに書かせた。	
つ。		
グループ学び	○次のような観点で理由を書いている児童の考えを中心に発表させ	
3 ⑦、⑧段落が必要かど	た。	
うか話し合う。	・⑥段落までに書かれていることと、⑦段落に書かれていること	
クラス学び	の違いに着目している。	
	・⑦段落、⑧段落に書かれている内容に着目している。	
	○⑦段落では、⑥段落までになかった新聞(写真)について述べられ	
	ていることから、1つの事柄だけでなく、もう1つの事柄を述べる	
	ことで筆者の伝えたいことがより分かることに気付かせる。	
	○⑧段落の「テレビでも新聞でも~」に着目させる。「テレビ」と「新	
	聞(写真)」について述べられていることから、⑧段落は文章全体の	
	まとめの役割があることを確認させた。	
4 筆者が⑦⑧段落を書	○説明的な文章では、1つの事柄だけでなく、複数の事柄で説明する	
いた理由をまとめる。	ことにより筆者の主張を伝えようとしていることを【説明文お宝ヒ	
	ント集】に自分の言葉でまとめさせた。【評価】	
5 学習を振り返る。	○本時の学習を振り返らせ、分かったことを記述させる。	

評価規準	⑦、⑧段落と他の段落との関係を考え、⑦、⑧段落の役割を捉えることができる。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	⑥段落までと⑦段落の書	⑦、⑧段落の役割を書いて	→⑦、⑧段落の書き出しに書か
	かれている内容の違いに	いる。	れている言葉に着目させる。
	気付き、⑦⑧段落の役割を		
	書いている。		
評価の方法	発言・ワークシート		

4 ワークシート



6時目

第4学年 実践事例 (7・8時目)

本時の目標

単元で見付けた筆者の工夫を比べて、大切なことから3つ選んで書くことができる。【読】

2 本時の展開(全9時間 本時7・8/9)

学習活動	教師の働き掛け(○)	
1 前時の学習を振り返り、	○【説明文お宝ヒント集】に書き加えてきたことを振り返り、本時で	
本時のめあてを知る。	はこれらの工夫を使って、筆者が伝えたかったことは何かを考えて	
	いくことを伝えた。	

単元で見付けた筆者の工夫を、比べて、大切なことから3つ 《本時のめあて》 選んでガイドブックにまとめよう。

- 2 「アップとルーズで伝え る」で筆者が一番伝えたか ったことを考える。
- ○「アップ」で伝えたかったこと、「ルーズ」で伝えたかったことをそ れぞれまとめさせた。

グループ学び

- ○2つの伝えたかったことから、筆者が1番伝えたいことが述べられ ている段落や文を見付けさせた。
- ○最後の段落に述べられている文章に込められた筆者の思いを考えさ せた。
- 3 筆者の工夫をガイドブ ックにまとめる。
- ○これまでの学習で分かったことや、【説明文お宝ヒント集】に新たに 加えたヒントを基に、筆者が自分の主張を伝えるためにどのような 工夫をしていたのかを文章にまとめさせた。

【予想される言葉】

- ○ガイドブックに載せる枠に限りがあることを提示し、文字数を制限 した。
- ・アップとルーズ
- ・筆者(中谷さん)
- ○まとめを書く際に用いるべき言葉を児童から出させるようにした。

- 対比 • 写真

【児童のまとめ】

- ・筆者の中谷さんは、対比を使ってアップとルーズのちがいをは っきりさせていた。
- ・筆者の中谷さんは、対比をくり返して使い、アップとルーズの ちがいをはっきりさせていた。
- ・筆者の中谷さんは、写真も使って説明することで、読む人にア ップとルーズのそれぞれの良さを伝えたかった。
- 4 文章を互いに読み合う。

グループ学び

○書いた文章をグループで読み合い、筆者の工夫が分かりやすくまと められているかを確認させた。

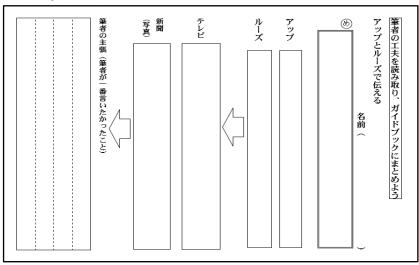
5 学習を振り返る。

○本時の学習を振り返らせ、分かったことを記述させた。

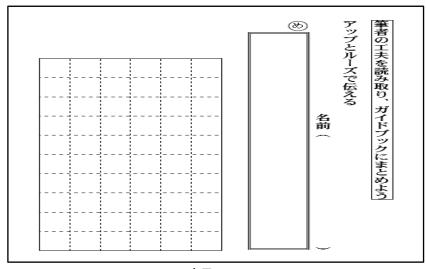
【評価】

評価規準	単元で見付けた筆者の工夫を比べて、大切なことから3つ選んで書いている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	筆者の主張を正確に読み	筆者の主張や工夫を 60 字	→筆者の主張が書かれてい
	取り、60字以内で筆者の主	以内で書いている。	る段落を【お宝ヒント集】
	張や工夫を書いている。		に新たに付け加えたヒン
			トから工夫を見付けさせ
			る。
評価の方法	発言・ワークシート		

4 ワークシート



7時目



第4学年 実践事例 (9時目)

1 本時の目標

単元全体を振り返り、単元を通して自分が身に付けた力に気付くことができる。【関・意・態】

2 本時の展開(全9時間 本時9/9)

学習活動	教師の働き掛け(○)	
1 前時の学習を振り返り、	○作成したガイドブックを見て、本時ではこれまでの学習を振り返	
本時のめあてを知る。	り、この学習を通して学んだことを振り返る時間であることを伝	
	えた。	

《本時のめあて》 見付けた筆者の工夫を、ガイドブックを使って、グループで 発表し合おう。

2 学習の振り返りを書く。

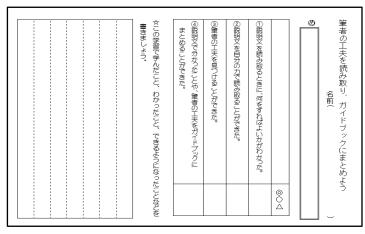
グループ学び

- ○自分の学びを振り返ることができるように、書く時間を十分に確保した。
- ○振り返りのワークシートは、(\bigcirc ○ \triangle) の 3 段階の自己評価をする 欄と、自由記述の欄を設けた。
- 3 振り返りを読み合い、単 元を通しての学んだこと を全体で振り返る。
- ○単元全体を振り返り、自分の力で説明的な文章を読み取ることができるようになったかを自己評価させたり、説明的な文章を読み取るときに必要なことをまとめさせたりした。【評価】

3 本時の評価

評価規準	単元全体を振り返り、単元を通して自分が身に付けた力に気付いている。		
	【関・意・態】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	説明的な文章の読みに必	単元を通してできるよう	→これまでの学習で書いた振
	要な新たな観点に触れな	になったことを書いてい	り返りやワークシートを参
	がら学んだことやできる	る。	考にする。
	ようになったことを書い		
	ている。		
評価の方法	発言・ワークシート		

4 ワークシート



9時目